

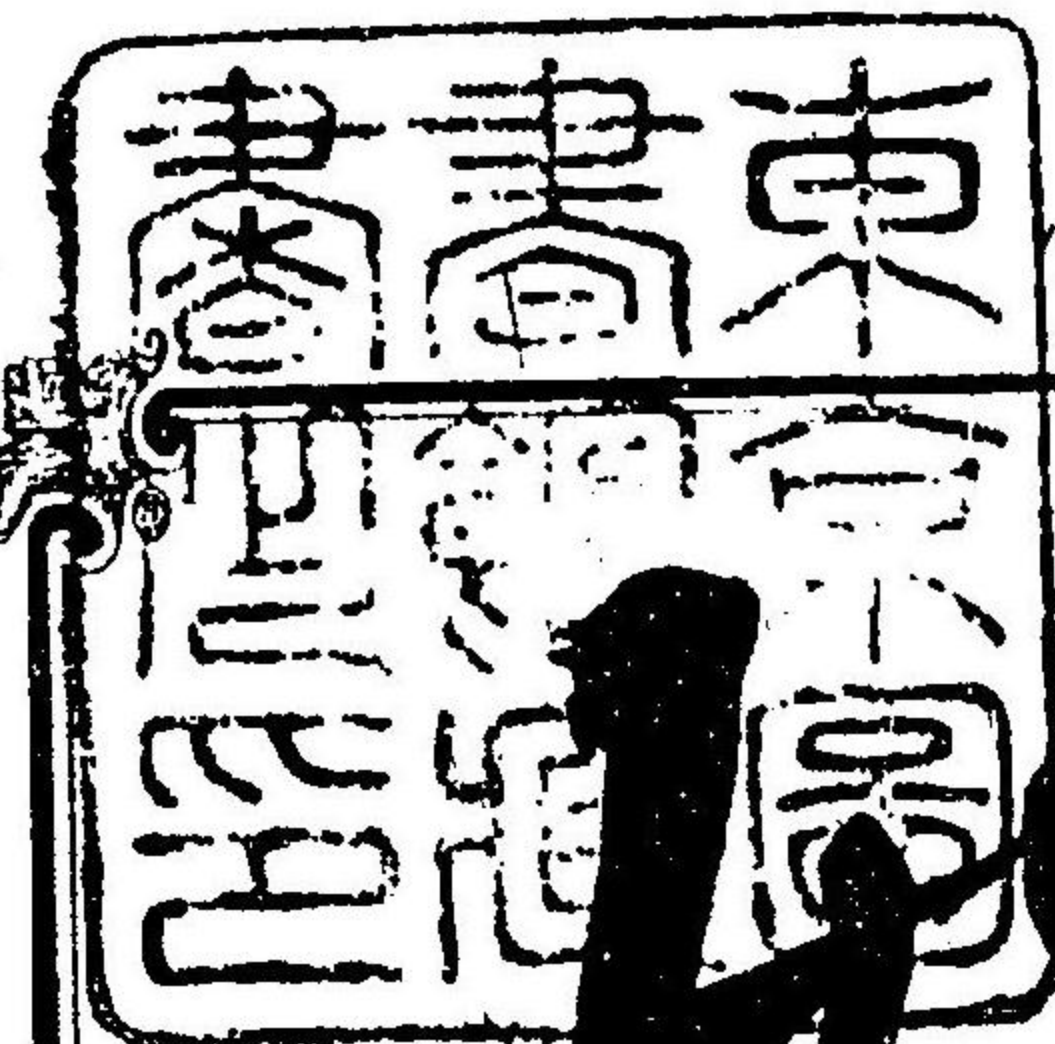
埼玉縣令白根多助著
菅間定次郎 傍訓

通俗
觀火餘事

桂河題卷

埼玉縣書肆
明文堂發客

特43
922



好
齋



通言

庚辰一月題

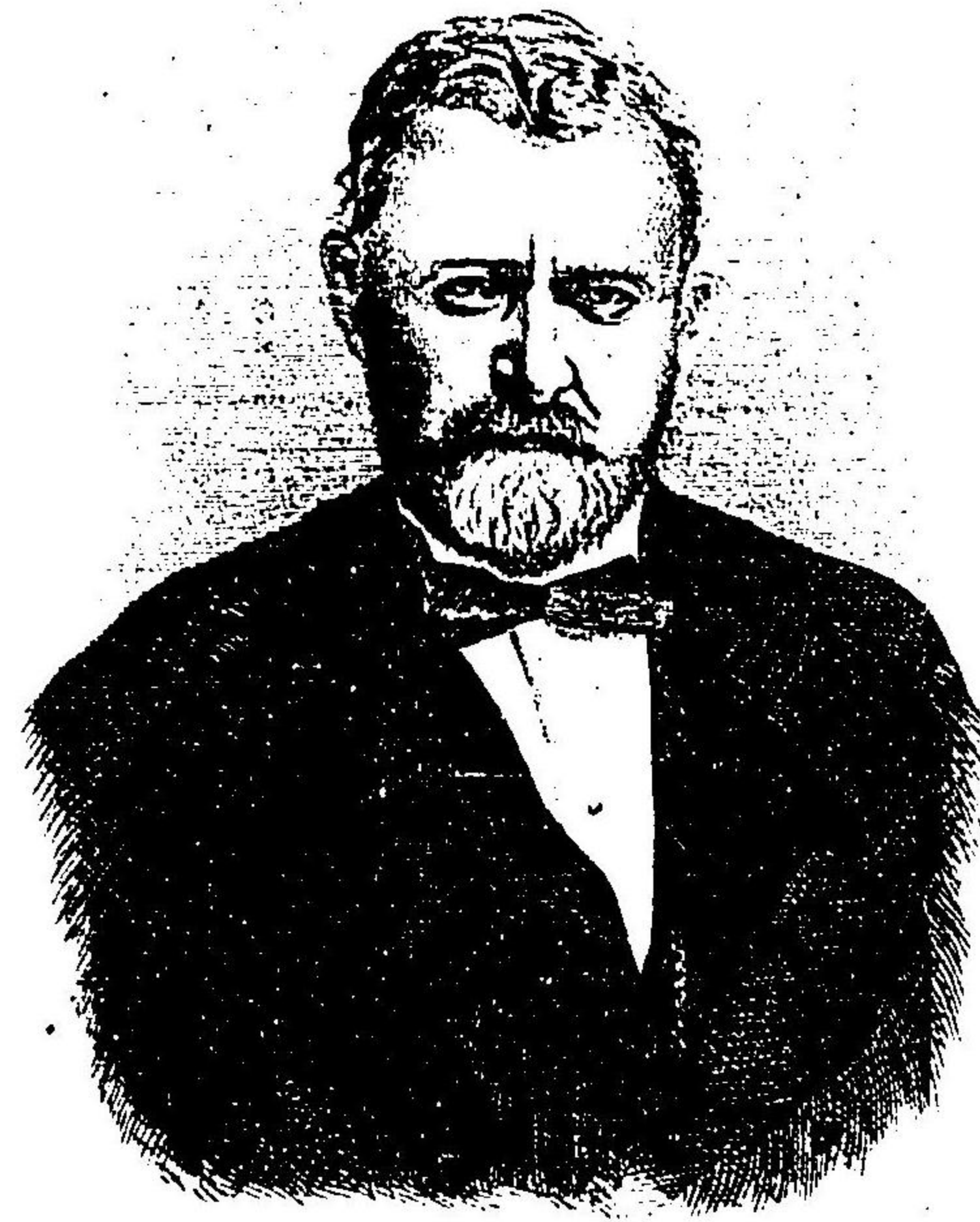
三洲長英

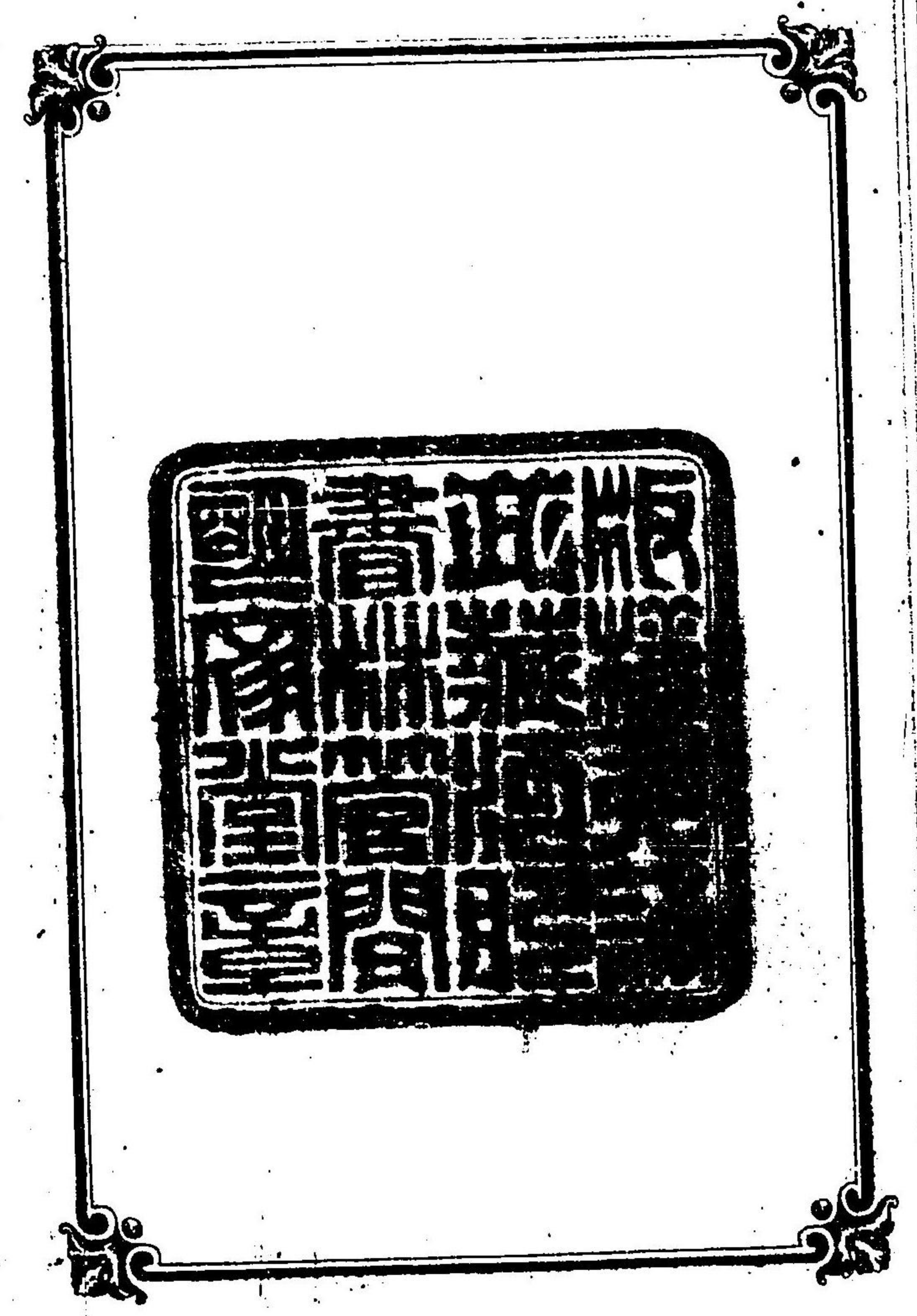
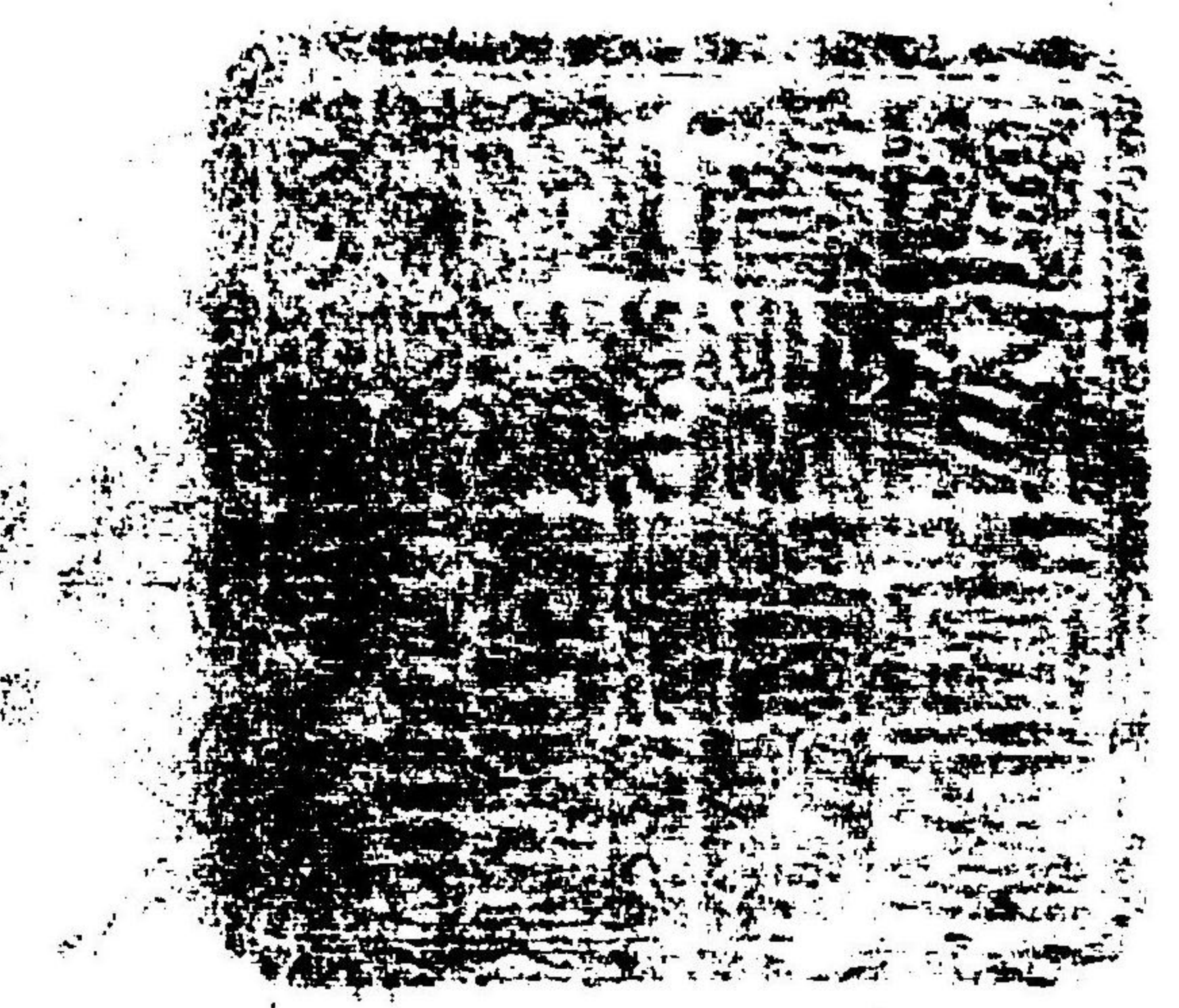


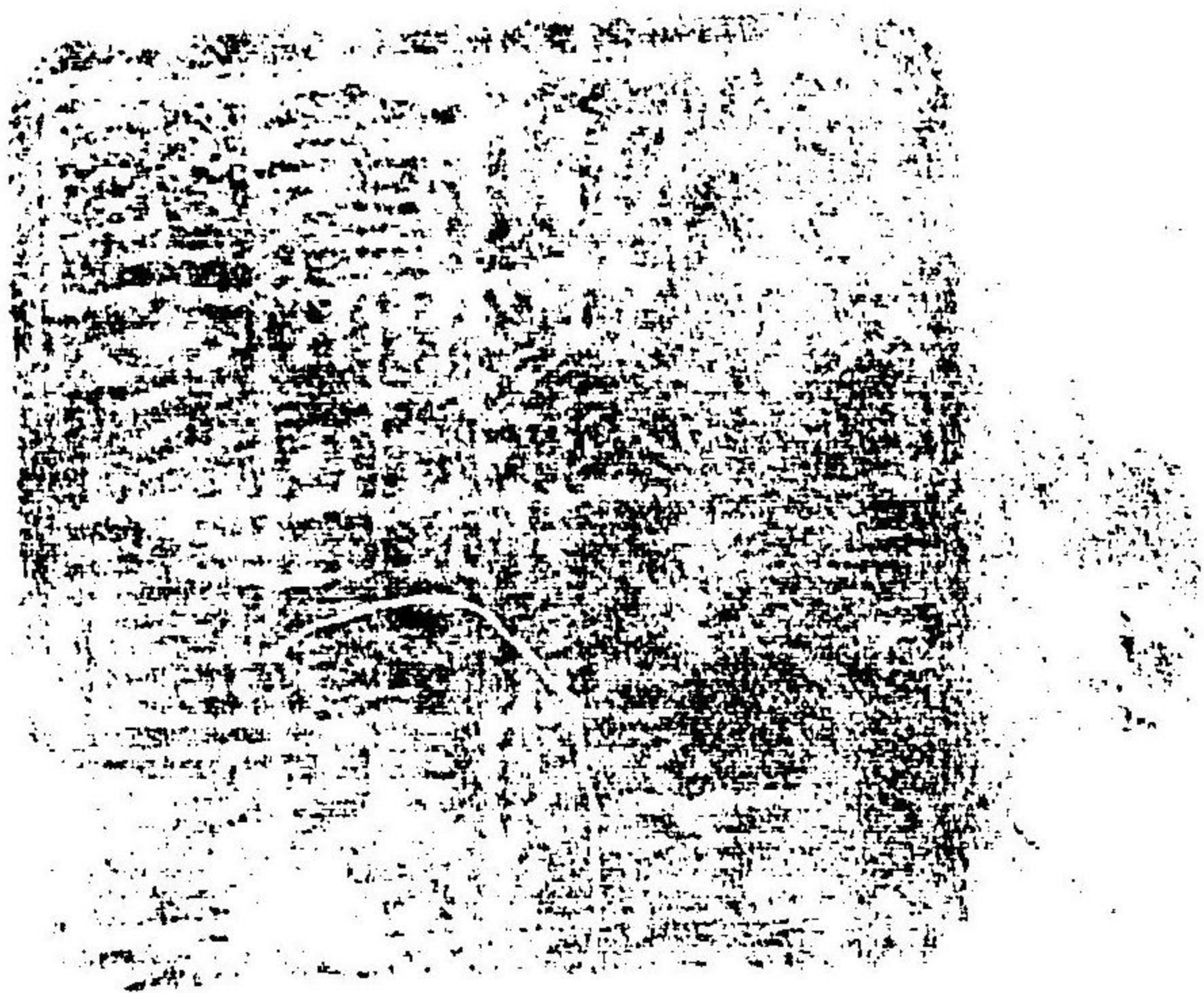
像肖公程白位及茂令縣玉琦



像肖公度龍慶領統大前因米







觀光餘事

埼玉縣令白根多助著

菅間定次郎傍訊

明治十二年七月三十日。余埼玉縣令ノ

職掌ヲ以テ。米國前大統領虞蘭度君ヲ

見ル。是ヨリ先君日本ニ來遊シ。日光山

ニ抵リ。是ニ至リテ東京ニ還ル。余出テ

之ヲ栗橋驛ニ迎フ。言田ゼンケン全權公使ニ
 紹介シテ。來迎ノ意ヲ通ズ。君之ヲ受ク。
 既ニシテ。余駕ニ陪シテ。晩ニ幸手ノ旅
 館ニ着シ。君ノ饗待ヲ辱クス。君余ヲ延
 キテ上客ト為シ。禮意懇懇一見舊ノ如
 シ。此夕譙ニ列スル者。君ノ夫人令嗣及
 隨行ノ書記官全權公使トヲ併セテ六

人ナリ。酒酣ニシテ。余全權公使ニ由リ。
 從容トシテ問フテ曰ク。酒間言ノ政事
 ニ渉ルハ。其時ニ非ザルニ似タリ。然レ
 トモ今親シク外國貴賓ノ譽咳ニ接ス。
 誠ニ千載一時ノ佳會ニシテ。復期ス可
 カラザルナリ。因リテ其唐突ヲ忘レテ。
 敢テ高論ヲ請ハント欲ス。許サンヤ否。

觀光餘事

明文堂藏梓

君答へテ曰ク。御ノ懇款オクノクンケン記ニ昔ヲ領セ
 リ。余起テ謝シテ曰ク。速ニ鄙衷ヒノウヲ嘉納カキウ
 セラル。感荷カンカニ耐ヘズ。請フ魯愚ロウゴヲ忘レ
 テ之ヲ陳セン。余不才無識ニシテ。任ヲ
 此地方ニ負フ。茲ニ年アリ。孽々トシテ
 民ヲ富庶ノ域ニ致サンコトヲ圖ルト
 雖未其寸效ヲ見ルニ至ラズ。豈心ニ愧

ヂサランヤ今君ノ宏才博識ニシテ。時
 務ニ老練ナル。其平生經驗スル所ニヨ
 リテ。治民ノ大要ヲ罷論スルコトアラ
 ハ。真ニ余ノ幸ナリ。是獨余ノ幸ノミナ
 ランヤ。部民百萬ノ幸ト謂フベシ。伏シ
 テ請フ其蘊奧ヲ吝ムコト勿レ。君欣然
 トシテ曰ク。大哉問ヤ。夫レ治民ノ要ハ。

觀光餘事
 明文堂藏粹

其土ノ政治文物人情風俗ヲ熟知スル
 ニ非ラザレバ未ダ施設ノ道ヲ語ルコ
 ト能ハズ而ルニ今萬里來遊皮相ノ觀
 ヲ以テ豈輒ク之ニ答フ可ケンヤ然リ
 ト雖卿ノ問モ亦拒グ可ラス凡世界萬
 國治ノ君民ヲ問ハズ洋ノ東西ヲ論ゼ
 ズ政ヲ為ス者ハ其民ヲ富實スルニ在

ルノミ請フ見ル所ニ就キテ之ヲ言ハ
 ンニ余向キニ卿ノ任地ヲ過グル學校
 己開ケ警保己ニ通ク到ル處田園遠ク
 連リテ未嘗際ナシ而シテ其民ノ勞ニ
 服シ業ニ安ズルヲ見テ深ク懐ニ感ズ
 ル所アリキ今問ヲ受クルニ及ビテ倍
 卿ノ心ヲ斯ニ注ギシヲ徵スルニ足レ

觀光餘事

明文堂藏梓

リ。獨憾ムヲクハ民猶農工器械ヲ開却
 シテ。身手ノ勞カヲ省略スルニ至ラザ
 ルコトヲ。苟器械ヲ改良シテ。農工ニ從
 事セシメバ。其勞ヲ省キテ其產ヲ興ス
 コト。今日二十倍スル者アラン。余深ク
 其言ヲ服膺ス。全權公使傍ヨリ之ヲ贊
 成ス。語間余齎ス所ノ土宜ヲ贈リ。乃曰

ク是不腆ナリト雖。余ノ管下武藏國入
 間郡狹山會社製スル所ノ綠茶ナリ。聞
 近來貴國ノ眷顧ヲ受ケテ。新紐克府
 ニ輸出スルモノアリト。因リテ茲ニ十
 二筒ヲ具シテ。以テ下執事ニ呈ス。夫人
 側ヨリ語リテ曰ク。余嘗テ嘗ム所ハ。紅
 茶ニ過ギザルヲ以テ。綠茶ノ風味ヲ知

觀光餘事

明文堂藏梓

ラガリシ。貴國ニ來ルニ及ビテ。始メテ
 之ヲ嗜ムニ至レリ。蓋緑茶ハ。雲芽露香。
 天成ノ風味アリテ。固ヨリ紅茶ノ能ク
 及ブ所ニ非ザルナリ。今ヨリ後ハ。綠茶
 ヲ以テ自家ノ飲料ニ供セントス。君モ
 亦曰ク。脚ノ管下ニ於テ。既ニ此良産ア
 リ。既ニ此良産アレバ。則更ニ其歩ヲ進

ンテ其利ヲ大ニセザル可ラズ。凡民ノ
 業ヲ勸ムルノ要ハ。人々ノ心カヲ尽ク
 シテ。成ル所ノ物品ヲ賣ラシムルニ在
 リ。既ニ之ヲ賣レハ。其收ムル所ノ利益
 ヲ以テ。人々ノ思望ヲ達スベシ。既ニ人
 々ノ思望ヲ達スレバ。人々心ニ快キヲ
 覺エテ。愈其業ニ罷勉スルハ。必然ノ勢

觀光餘事

明文堂藏梓

ナリ。其際或ハ華奢ニ漏スル無益ノ物
 料ヲ製出スルコトアルヲ免レザルモ。
 畢竟國家ヲ潤色スルノ玩物ニ外ナラ
 ガレバ。務メテ之ヲ賣リ之ヲ製シ。其餘
 贏ヲ以テ。遂ニ社會ヲ利スルニ至ラシ
 ムベシ。余曰ク。善哉言ヤ。之ヲ小ニシテ
 ハ一人ノ業タリ。之ヲ大ニシテハ國家

ノ經濟タリ。遂ニ物産ヲ海外ニ輸出シ。
 國ヲ富マシ民ヲ利スルニ至ラン。果シ
 テ然ラバ。富國利民ノ最點ハ。先ヅ一人
 一個ノ製造品ヲ賣ラシムルニ源因ス
 ル命意ナルガ如シ。知ラズ其然ルヤ否
 全權公使曰ク。然リ。令嗣書記官モ亦全
 權公使ト。此問答アルガ如シ。時ニ夫人

余ノ心ヲ勸業ニ刺スルノ語氣アルヲ
 見テ曰ク。余異日本國ニ歸ラバ。必有益
 ナル蔬菜果實花卉等ノ種子ヲ送りテ。
 聊卿ノ高意ニ答ヘン。余謝シテ曰ク。然
 ルコトアラバ。幸ニ其播種ノ時季ト。培
 養ノ方法トヲ記載シテ。寄贈セラルレ
 バ。望外ノ幸ナリ。夫人之ヲ領シ。賚酬一
 七

夕。歡ヲ尽クシテ罷ム。翌日早起別ヲ告
 グ。余離思自ラ禁ユルコト能ハズ。君ノ
 夫妻モ亦黯然ノ色アルガ如シ。既ニシ
 テ馬車駿々トシテ去ル。余之ヲ目送ス
 レバ。已ニ壑舟ト為ル。嗚呼。余ノ不敏ナ
 ル一日萍水ノ間ニ相見テ。深ク君ノ夫
 妻待遇ノ厚キニ感シ。又其音容ノ嫺雅

ニシテ。應酬ノ周到ナル。固ヨリ堂々
 ル文明大國ノ貴客ニ負カザルヲ知ル。
 因リテ之ヲ思ヘバ。地方民政ニ於ケル。
 猶問フヘキ者多シ。今ヤ大洋路隔ケリ。
 良會難シトナス。何ノ時カ再ビ手ヲ
 堂ニ握リ。勸業教育警保等ノ要領ヲ
 クコトヲ得ンヤ。

明治十二年九月十日

埼玉縣令白根多助

予ガ記憶スル所ニヨレバ。當時ノ讌集
 ニ方リテ。他ノ雜話アリト雖。其叙事ノ
 大要ハ。皆斯貴稿ト異ナルコトナシ。故
 ニ刪補ヲ要セズ。貴介ニ附シテ。之ヲ返
 還ス。

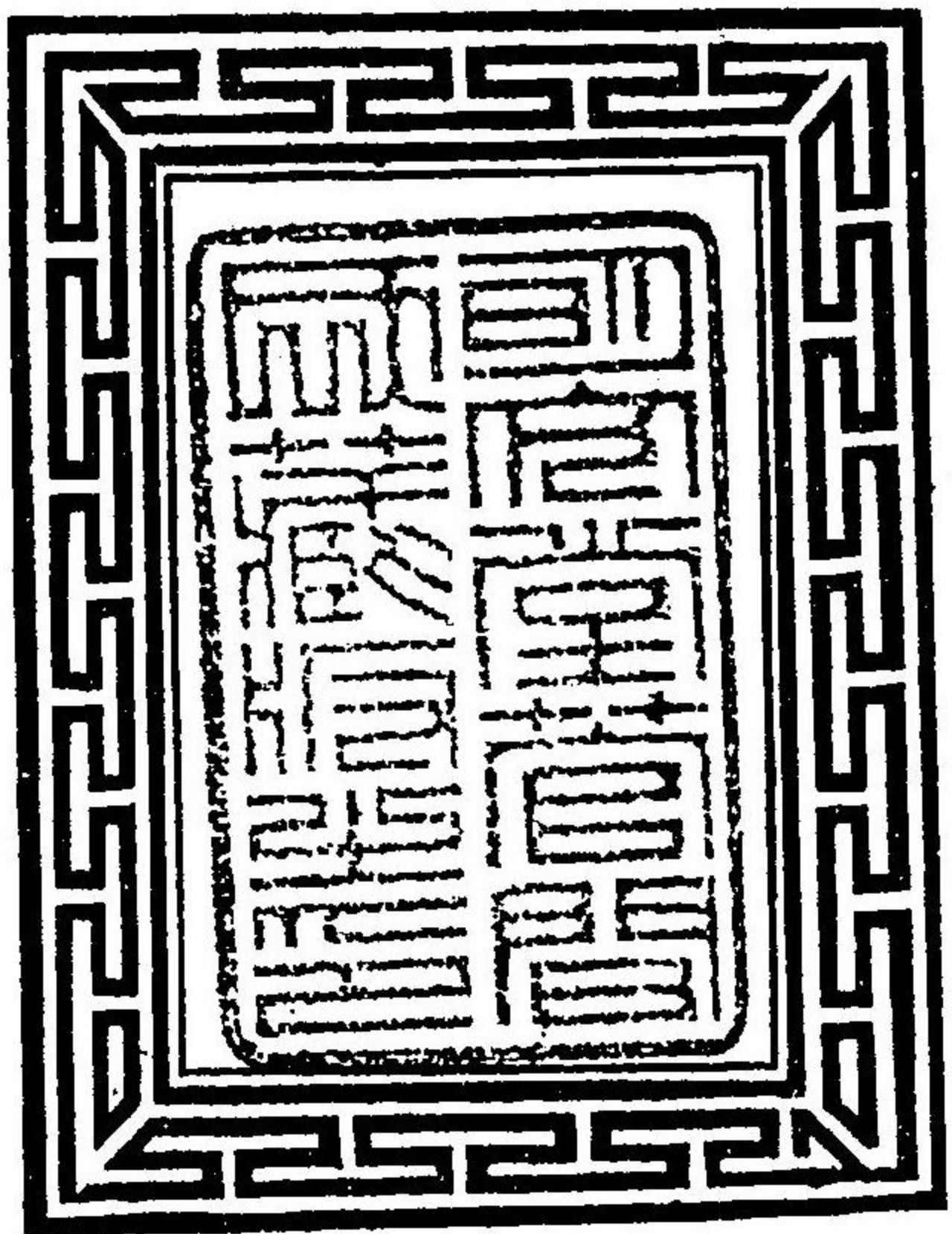
特命全權公使吉田清成

此觀光餘事ハ余嚮ニ米國前大統領虞	蘭度氏ト面晤セル所ヲ記スルナリ今	ニシテ之ヲ思ヘハ行文ノ拙ナル大方	ノ覽觀ニ供スルニ足ラスト雖氏ノ落	フル所其言近易ニシテ其旨深遠實ニ	治民ノ肯綮ヲ得ル者ト謂フベシ故ニ	獨之ヲ箇筭ニ藏スルニ忍ビス私ニ印
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

刷シテ以テ同好ノ諸君子ニ頒ツト云

明治十二年九月十日 白根多助誌

觀光餘事 明文堂藏梓



十

版權免許明治十二年十月廿八日

定價十錢

著者

山口縣士族

埤玉縣令從五位白根多助

武藏國比叺郡浦和驛寄居地寄留

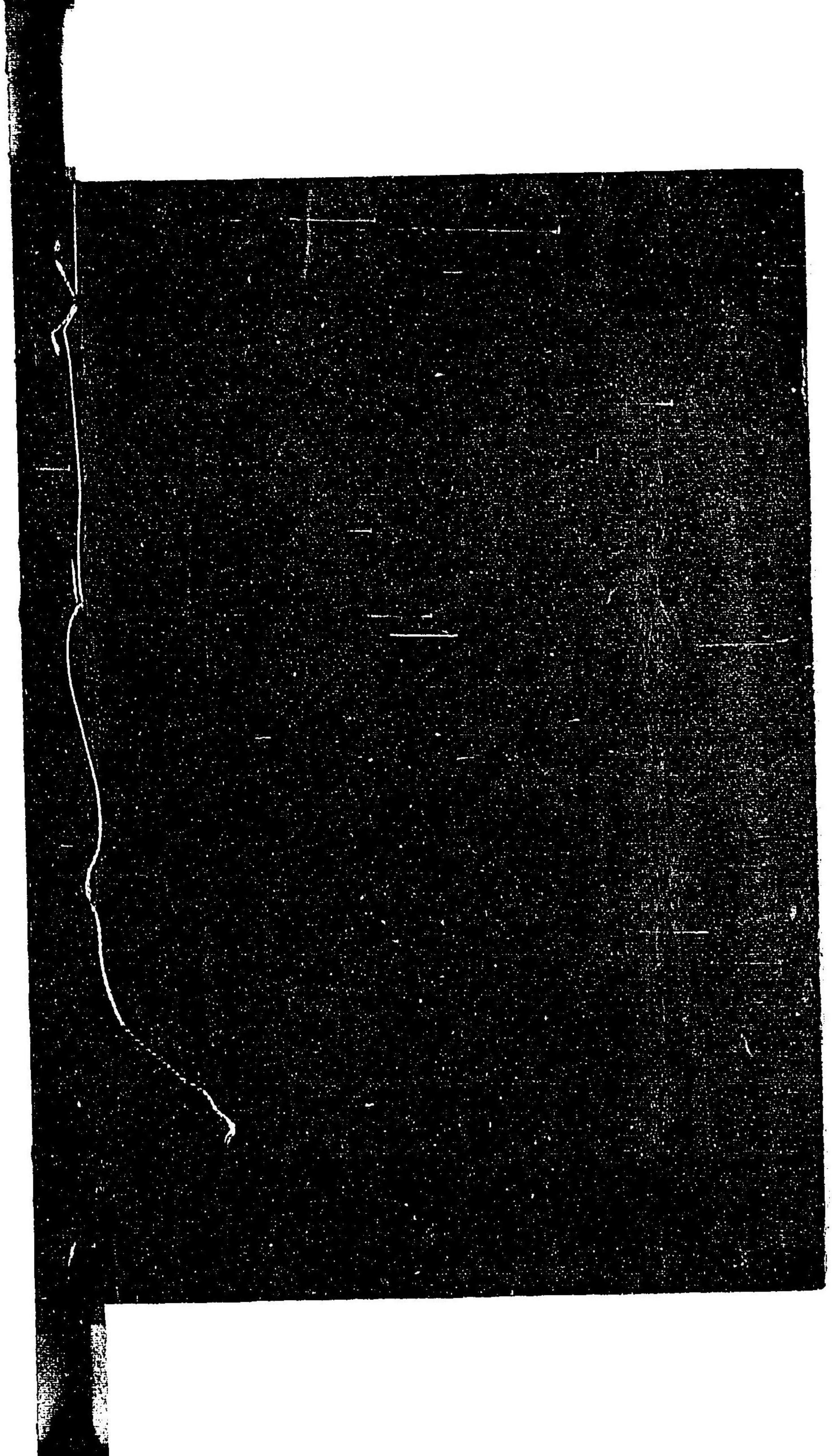
傍訓兼出版者

埤玉縣平民

菅間定治郎



武藏國八潮郡川越南町土着地



特43

館書圖京

922

函五三

門新

架二一

部九一

號

類

022427-000-9

特43-922

觀光余事(通俗)

白根 多助/著

M12

ADB-0076

